

R-18
Adult Only



HILL

「そうですか
ではその女性は
あなたの化身なんですね」

「はい……いつも通り
試合中に出したんですが
何故かこんなに小さく……
まるで人間の女性のような
大きさになっていて……
言葉も話せないままのようだし
しかもいつもみたいにい
消すことができない」

「それは困りましたね……」

「ええ……それで
困り果てていたら
この化身を
調べるための
研究施設を紹介されて
化身を……タマズサを
元に戻してやることは
できませんか？」

「うん、
うん、
うん」

「なるほど……
そういうことでしたら
力になりますよ
ではあなたの化身の
タマズサでしたか
少し検査してみますので」

「はい、お願いします」

「さくそ二人きりになれたね
えぐつとタマズサちゃん
……だったかな
うぐん化身だから
お話できないのが残念だね」

実は化身がこのように
我々人間に近い状態になって
現れることは珍しくないのだ



ただそれを知るの
はボクのような
研究者くらの
ものなので…

何も知らない
彼ら化身使い達
はこうしてボクら
研究者を頼って
化身を連れてく
るといふことだ



「しかし今回の
タマズサちゃん
はえらく可愛い
おっぱいも大き
いね!」

「フフフ、こ
んな話されて
もわからない
よねえ…」

「この状態になった化身は
実は2、3日もすれば
自然に元に戻るんだよ
でもまあ……
それをそのまま伝えて
はいサヨナラじゃあ……
勿体無いからねえ」

「筋肉ガッチガチの
男性型の化身ならともかく
タマズサちゃんみたいなの
化身を放っておくなんて
もったいないもんねえ？」
「？」

「はい、それじゃあ
タマズサちゃん
まずはその大きな
おっぱいから
検査しようね？」



おや？タマズサちゃん
人間が相手でも
おっぱいを
見られるのは
恥ずかしいのかな？
顔をこんなに赤くして…

いいねえ
そうこなくちやなあ

かああ…

おっぱい

「タマズサちゃん
極上のおっぱいだね
ずっと揉んでいたいなあ」
「…っ…っ」

おろおろ
プルプル
震えちゃって…
感じてんなくこりやあ

おおお：
おっばいに
搾り取られる……！！

ヒュル

「はあ……うぐん
タマズサちゃん
やっぱりお熱が
あるみたいだね
そのせいで元に
戻れないのかな？
これじゃあのカワイイ
ご主人様のところに
戻っても
困らせるだけかも」
「……！！」

ご主人様……
と言った途端に
焦りはじめた。
言ってることがまったく
理解できないわけでは
ないみたいだな……

くす……

「タマズサちゃん
カワイイご主人様に
迷惑かけてるって
気付いてるんだねえ」
「……………」

おほお……

（おほお……
傷ついている
タマズサちゃんも
かわいいなねえ）



……

「タマズサちゃんか
ボクの言うこと
聞いてくれたら
ちやうんと
元の大きさに戻れるし
いままで通り
姿を消すことも
できるんだよ
頑張れるかな？」

ぽん

「……」
「どうやらタマズサちゃんは
頑張る気らしい。
いやあ、いい化身を
持ったねあの子」
「それじゃあ……
ボクのいうとおりにしてね」



「そうそう……
そのままボクに
お股を広げててね
タマズサちゃん」

タマズサちゃんは
あまりの恥ずかしさに
大きな目を
うるうるさせているが
ご主人様のために頑張って
ボクにアソコを
見せ付けている

♡おっぱい♡

♡♡♡

「タマズサちゃんは
クリが大きいねえ
自分で触ったこと……
はないよねえ？」
「……………」
「……ッ！」

♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡



どうやら
タマズサちゃん
クリをこね回されるのが
お気に召したようだ
腰を浮かせて
ビクビクと痙攣する姿は
ポクの下半身にかなりくる

「タマズサちゃん
イキそうになったら
我慢しないで
いいんだからね〜」

「あ、イクって
わからないよね。
いいよ、いいよ大丈夫
これから嫌でも
わかるからね！」

クリを思い切り
押しつぶしてやると
タマズサちゃんは
激しく痙攣し
子犬のような
鳴き声をあげた



「タマズサちゃん
はじめてのアクメで
ぼくっとするのは
わかるけど
まだ頑張っ
てもらおうよ!」

「それっつと!」

タマズサちゃんの
ナカは予想通り
キツキツで
ボクのチンポを
キュウキュウと
締め付けてくれる

「!!
「あゝやっぱ
化身まんこ
サイツコ!」

「タマズサちゃん
頑張ったねえ…
ボクがお注射
してあげたから
あと2、3日もすれば
いつものタマズサちゃんに
戻れるよ」

はー♡

「…」

♡
♡
♡

♡
♡
♡

♡
♡
♡

♡
♡
♡



タマズサちゃんは
満面の笑みを
ボクに向ける
これで彼女も
安心して
ご主人様のところへ
戻れるだろう



いやあ
いいことした後には
気持がいいなあ



朝起きると俺の化身、ブリュンヒルデがまるで人間の女性のような大きさになっていた

やっぱりキミはブリュンヒルデだよな...? ふむ...

ハッ!

何かなんだかわからないがとりあえず学校へ行こう!

ブリュンヒルデ どうやらその装備がいけないらしい

とりあえず目立ちそうなものは全部俺が預かるう

うくむ 目立ってしまうな









おまえたちーっ
うちのプリンスとエルデ
なにかしてらるー！

ウワーツ
アイツは
サッカー部の
女顔で有名な
やつだーっ！

テっちゃん
ヤバイよ
あいつ何か
スゲー装備だよ！



一人にして
すまなかつたな
もう大丈夫だ

ついでにすま
コンニチ











レイバーが
消えちまった!

んはおおお...



アテナは
俺が守る!!



ヒギイ!
これは虐殺の
ヨ、カ、ン...!!

テメエら
覚悟はできてん
だろうな!



よい子は
サッカー中に
セックスしちゃ
いけないぞ!
肉棒のレイバーとの
お約束だよッ





この本は個人の
二次創作であり
関係者様各位とは
一切関係ございません
無断転載、
ネットオニクションへの出品
webへのアップロード等
一般の目に触れる場所への
公開は一切厳禁です
また、この本は
成人向けの為
18歳未満の観覧は
ご遠慮ください

手にとっていただきませ
ありがとうございます。
ナユザキ



■「化身H」
■印刷 丸正インキ様
■発行日 2013/06/02
■発行者 ナユザキナツミ (ぼたもちの宴)
<http://nayuzaki.x.fc2.com/>

花儿朵朵2013

